

# 仕事で自分の器を磨け。 より大きな挑戦のために

「人間として未熟では一定以上の域には達しない」

挑戦を重ねることで

失敗を恐れず何度でも挑戦することこそ価値がある。

継続は力なり

行く道が開かれていく

「練習は不可能を可能にす」  
成長とは、そういう泥臭い毎日の繰り返しをもたらしてくれる。

仕事を取り巻く状況が大きく変化していても、変わらないのは「限りない積極性と、素直な心を持ち続けること」

## 違和感を見過ぐさない

一貫しているのは徹底した現場主義だ。事業の種は現場に転がっている

現場で起きる事実が全てなのだ。「事実をつかめば、勝負あり」

ともすると通過してしまいそうなきささいな違和感に立ち止まり、少し多めに、長めに考えてみる。すると思いつかない、ヒントが見つかったりします。

ネタを「探す」のではなく、自分の感情がざわついたり、反応するものに「気づく」こと

## チャレンジしないリスクは大きい

もしそこに新しいチャンスがあったとしたら、リスクとしては、チャレンジするリスクと、チャレンジしないリスク「オポチュニティーコスト」がある。オポチュニティーコストとは、チャレンジをためらって無駄に過ぎた機会コスト、時間コスト

人間に独りでできることなんてありません。つねに他に恵まれてこそ人は在る。

活躍とは、人それぞれの価値を生かすこと。

「頭がいいか悪いかを判断するのは簡単なことです。ポイントはその人に考える習慣があるかどうかです。逆に言えば、考える習慣を持っている人を頭のいい人と言っんです」

かつて輝かしい業績をあげていた企業が、長い低迷に苦しんでいる例は少なくない。その原因の多くが、過去の成功要因に縛られ、新しい価値を提供できなくなっていることにある。

## 動けば未来は変えられる

どんなに成功した企業も、新しい挑戦をやめた時点で衰退していきま

「『圧倒的努力』をしろ」必ずいい結果が生まれる